

## 自治体学会情報発信方策検討委員会検討状況（中間報告）

### 1. 委員会の目的及び開催状況

自治体学会の持続可能性を向上させるため、複数の部会の所掌事項を横断するような事項を検討するために委員会を設置した。情報発信方策検討委員会（以下「委員会」と略す。）は、自治体学会副理事長の青山崇を委員長として、荒木和美（委員会幹事・総務部会）・友岡一郎（委員会幹事・編集部会副部長）・榎本好二（総務部会会長）・塩浜克也（研究支援部会）・塩見牧子（評議員）・竹見聖司（企画部会会長）・長野基（編集部会会長）・南部浩一（地域支援部会会長）・元吉由紀子（会員）の各氏で構成され、SNSのさらなる活用、ホームページの更新など学会の情報発信の方策を検討する。

これらの検討のため、現在まで、5月29日、6月25日、7月23日及び8月10日にzoomによる会議を開催した。

### 2. 委員会の具体的検討課題（評議員会提出第5号議案付属資料〈検討課題〉記載項目）

- ① オンラインの更なる活用（魅力向上の項目に記載）
- ② 地域の魅力を発信（魅力向上の項目に記載）
- ③ 会員拡大に向けたPR（特に、パンフレットに関して）（魅力向上の項目に記載）
- ④ HP更新の検討
- ⑤ SNSの活用
- ⑥ 学会HPへ会員が情報を掲載する場合の基準の検討

### 3. 具体的な検討の概要

#### （1）検討の前提となった認識

- ① 誰が誰に対してどのような情報発信をするのか？広い視野での情報共有方策や具体的な技術方策（印刷媒体、ICTほか）についても議論したい。
- ② 「情報発信」について、学会の持続可能性を目的とした新規会員獲得、現会員退会抑制の点から、ターゲットと発信すべき魅力ある情報の中身を考える必要があり、そのためには学会が持っている「魅力」を再確認する必要がある。
- ③ 自治体職員と研究者では学会の「魅力」が異なるので、それは把握する必要がある。

## (2) 当委員会の考える学会の魅力（自由意見）

- ① 職員、研究者、市民がフラットな関係で幅広い層の参加
- ② 地域で頑張っている活動
- ③ 学会での発表や学会誌での研究論文発表を魅力と感じる「若い層」と、「古株」が感じる魅力の違い
- ④ 職場での審議会等で学識経験者の選定の時に実利がある。
- ⑤ 自分の自治体の議員とは詳しく話ができないが、他団体であれば議員と話せる。本音で話ができる。
- ⑥ 一年に1回、いろいろな方と話せることで勉強になる。さらに踏み込むことで、研究者・NPOなど様々な方と語れる。仕事にも活かすことができおり、好影響。
- ⑦ 学会の魅力、守っていききたいことは、「自治を論じる、自治を闘って守る場」としての意味合いがある。
- ⑧ 単なるつながりとしてのネットワークではなく、個人が力をつけて仕事に活かし、組織力アップにつながるネットワークに、重層的に個人も組織も向上させていくことができるものになっている。
- ⑨ 超専門集団ではないことで、逆に、いろいろなセクター、年代につなげることができる。
- ⑩ 自治体学会でフラットに話ができるのは、他の学会のように研究者の上下関係などが無いから、安心して議論ができる。

## (3) 魅力を発信するための具体策の考え方（自由意見）

- ① 会員の減少の防止と増加に考えるならば、対象を現会員の維持、会員からの紹介がある人の会員化、まったくの新規参加の3つにカテゴライズし、それぞれの特性に合わせて、メディアや発信内容・頻度などを使い分けるとよい。
- ② 情報交換については、会員同士の語らいの場を持ちたいという気持ちはあるだろうから、そこは大切にしたい。
- ③ 何の情報をどのようなメディアを使って誰に向けて発信するかが大事。まずは、試しにやってみるのが大事と思う。その意味で試行的にいろいろとやってみるのがよい。手軽な手段で、自由度高くやってみることがよいのではないかな。
- ④ 事業のカレンダー共有はいいことではないかな。
- ⑤ 研究者等の会員の著書について著者から話をしてもらい、会員が職員としてつくった自治体の計画などについて話したり、仕事でチャレンジしていることなどを報告するという情報発信もよい。
- ⑥ 学会が地域から情報を吸い上げて、その情報を会員に紹介することは意味があると思う。そういう意味で、地域活動紹介のツールなどもよいと思う。
- ⑦ 学会として正式に何を発信できるのかの基準が必要ではないかな。学術会議任命問題への対応などでそうした課題があった。会員対学会という構図でのやりとりになった場合に、返信が学会の公式見解かどうか問題になる。

#### 4. 今後の検討方向

これまでの委員会での議論を踏まえ、今後、以下の内容について具体策を検討していく。

- ① 現会員向け、新規加入促進といったコテゴリー別の情報発信方策と内容の具体化
- ② 更に、自治体職員・研究者・自治体議員・NPO等の活動者等の会員属性に応じた情報発信方策の内容と具体化
- ③ 会員の自由な意見交換の広場として、どのようなSNSツールが活用できるかを、試行的に実施しながら検討
- ④ 会員意見のHPの掲載基準等の在り方やHPの内容と更新の方策

#### 5. 委員会の検討への会員参加について

会員に開かれた自由な議論を進めるために、多くの会員にご意見・ご提案をいただきたいと考えており、当面、委員会として以下の方法で会員からの意見聴取を考えている。

特に、技術的な面での議論を深めるため、IT関係の知見を有している会員からの具体的なご提案や協力をお願いしたい。

- ① 学会MLでの委員会の議論の概要報告と意見募集(委員会開催後)
- ② SNSツールを試行的に実施した場合、SNSでの委員会の検討概要の報告と意見募集
- ③ 希望する会員の委員会へのゲスト参加